

## B-1 山元町笠野地区

2012年6月19日(火)・24日(日)

---

報告者名	稲澤 努	被調査者生年	1956年(女)
調査者名	稲澤 努	被調査者属性	八重垣神社宮司(B-6・B-7・B-9話者)
補助調査者	金 賢貞		

---

### 植樹祭を行うに至った経緯

日本財団から支援の話があった。被災前から、道路を作る、松くい虫がつくなどの理由で少しずつ木を切っており、神社の森が薄くなってきていたのが気になっていて、少し植えたいと考えていた。今回、被災で丸々なくなってしまったので、ありがたい話だとその申し出を受けることにした。また、植樹を指導していただく大学の先生の本は以前読んだことがあり、そのお考えは少しわかっていたので、お願いすることにした。

普通の人はお社が心配になるのだろうが、それはよほどのスポンサーがつかないとできない。氏子さんはみな被災しており、寄付集めなどはできない。神道はもともと自然の中の宗教であるし、森は1、2年では育たない。まず木を大きくしたところに神様に来ていただくのがいいかと思う。

### 木を植えた神社をどういう場にしていきたいか

みんなが集まれる場にしていきたいと思う。

### 社の再建について

宮城県神社庁から、伊勢神宮を建てる時に使う御用材を切り出す山の間伐材を使った社再建のお話をいただいている。それは県内の被災した20数社が共通の設計図でお社を再建するもの。ただし、八重垣神社はすでに祠をいただいているので、うちは後回しでいいと県には伝えてある。氏子さんも拜むところがあればいいとおっしゃっている。しばらくは今の状態がいい。

### 植樹祭当日および事前準備の予定

前々日に縄切り、苗木の仕分けなどを行う。前日には25キロのわら束を130束と、水を含ませた苗木のトレーも配置。ともに重いので力仕事。また、天気が良ければテント張りもする。また、駐車場の線引き、トイレ設置なども行う。こうした作業はイベント会社にやってもらう。

植樹祭当日は午前中植樹指導の先生が関東から到着するのを待って、スタッフのための神事を行う。これはイベントの中で大掛かりにやるのではなく、安全祈願祭として話者が行う。植樹はブロックに分けて行うが、各ブロックごとのリーダーのための事前説明を行う。早めのお昼を食べて、13時から受け付け開始。来賓あいさつ等のもと植樹。植える作業自体は1時間程度で終わる予定。現在参加申し込みがあるのは仙台の学生が150人、その他200人くらい。当日飛び込み参加もあるので、400人程度になりそう。

### 地区住民の参加予定

当日の午前中に、笠野地区の仮設集会所で住民の集まりがある。区長さんが、みんな集まったらそのまま神社に行くように、お昼もだしましよと言ってくれた。地区の集まりのご案内のなかに、植樹祭のチラシをいれてもらっている。ファックス等の事前申し込みでは氏子さんからはあまり来ていないけど、当日くればいいか、と多くの人が思っていると思う。電話で直接神社に申し込みされる方はおり、その場合はお互い近況についても話したりする。



写真1 被災地訪問団を見送る宮司



写真2 植樹する木の紹介をする主催者、来賓

みんなが来てくれれば、その時に夏祭りの話もしたいと考えている。

氏は300件くらい。はっきりは把握していないが、そのうち町内に残っているのは150件くらいか。震災後、カミダナは全部で150は配った。そして、お正月には、お札を持ってカミダナをくばったところに、再度伺った。やはり皆さん、より普通の今までに近い生活がしたいと思っている。神様のことも今までに近い形でやりたいと。もちろん、いろいろあってそれができない方も当然いるけれども。

#### 今年の夏の例祭（お天王さま祭り）

ある氏子さんが、お寺は皆さん先祖が眠っているのでお墓参りで集まることはあるけど、笑って集まれるのは神社だよねといわれた。だから、小さくてもいいから、お祭りをして、みんなが笑って集まれる場所をつくってほしいと頼まれた。みんなふさぎこんで一年すぎてしまったのでかなくなりたい、というのがある。年中笑ってはいなくても、みんなで笑える瞬間を、そういう空間を共有したい。だからお祭りをやろうということになった。以前と同じような祭りはできないけれども、できるだけことはしたい。

7月28日が宵祭り、29日が本祭りである。現時点でどの程度できるかはわからないが、28日夜には花火をあげ、29日は午後には御祈祷、2時に神輿をだす。神輿も壊れていて、大工さんが人間の家を建てるのに忙しかったこともあり、直せなかった。でも、直してくれる方があらわれて、今直してもらっている。ただし、浜降りは難しいので、氏子さんが多く住む仮設住宅2箇所に行く（調査者注：実際には浜降りも行われた）。仮設住宅までは車か何かで運び、そこでみんなで「わっしょい」しようかと思っている。担ぎ手は前担いでいた人たちのネットワークを使ってこれから声をかける。

ただし、何もなくなってしまったので、神輿を出す、祭りをする、と決まったらあれもこれも直したり、揃えたりしないといけないので、大変だと思った。

#### 夏祭りの装束について

町の指定文化財であった神社の建物はなくなってしまい、指定は解除された。それでもお天王さま祭りは有名なもので、なんとか助けてくれるということで、指定はできないけれども、祭りを無形文化財と考える、と言ってもらった。そのため、お神輿担ぐ際の装束などは援助してもらえるということで、助かっている。だから、お祭りをする方向で頑張っている。装束は、今はやっと見本が出来た段階。少なくとも30着、できれば以前のように40着はほしい。装束は、私たちは白張（ハクチョウ）と呼んでいるが、それは調べてみると神社ごとに形もいろいろであった。それを今までどおりにしたい、ということになると特注になってしまうので、結構いい値段がする。昔は、ふんどしにパッチで海へ入った。昨日海へ入らなくてもふんどしかと、ある氏子にきかれたが、やはり海パンなどでは変なので、白張の下にはふんどしをつける形で行う。

## 神社関係者との交流

被災地を見学する神社の支部の方はときどきやってくる（この日も姫路の団体が見学に来て話者の話をきいて帰って行った）。個人的にお参りがしたいと来る方もいる。神社関係のモノはその辺では手に入らないものが多いため、神社関係の人が「これ使うのでは」と持ってきてくれると、おさがりでもありがたい。そうしたモノは今まで普通にあったものなので、使おうとしてはじめてないことに気付くモノが多い。



写真3 植樹の様子



写真4 植樹の前後に列をなして参拝する住民たち